

第 35 回番組審議会議事録

1. 開催年月日 平成 24 年 6 月 29 日(金) 午前 10 : 30 ~ 11 : 35
2. 開催場所 箕面市船場東 2-5-47 COM3 号館 5 階 COM 倶楽部会議室
3. 委員の出席 委員総数 10 名
出席委員 6 名
出席委員の氏名 稲垣千秋、稲井信也、井上光央、須貝昭子、
高谷和彦、中 宏
以上 6 名
放送事業者側出席氏名 岡田 堅治 (取締役)
大平麻由美 (編成課長)
永田 純子 (編成課員)
4. 議 題 1) 番組 Let's Sing (レッツ・シング)
2) 審議
3) その他番組に対する意見
5. 議事の概要 事務局挨拶の後、稲垣委員長が議長となり審議となる。

6. 審議内容

1) 番組

(1) 事務局より番組説明

おはようございます。今日は、毎月第1月曜日の午前11時から20分程度放送している「Let's Sing」というコーナーをご試聴いただきました。黄堂あゆ子の担当で、親しみのある童謡や聴いてほっとするような音楽をCDで紹介するのではなく、違った方法で紹介したいという企画で、彼女の人脈で、知人の箕面出身の音楽家、関西二期会・箕面シティオペラに所属していらっしゃる松下弥生さんにスタジオで生で歌っていただいています。毎回季節にちなんだ2曲ほどを選曲していただき、伴奏はCDで持ち込み、歌はスタジオで生で歌っていただいています。今回聴いていただいた5月の放送分では、母の日を間近に控え、母への思いをつづった内容の歌「この道」と「みかんの花咲く丘」を歌っていただきました。また、毎回その曲にまつわるエピソードなどもご紹介いただいています。なかなか他では聴けない生の歌声でお送りしている、そんな番組です。

(2) 審議

委員長：ありがとうございます。では、みなさんに意見を頂戴したいと思います。

委員：単刀直入に申して非常に良い番組で、心地よく聴かせていただきました。パーソナリティの黄堂さんとゲストの松下さんのトークや進め方がテンポよく、心地よく聴けました。次の放送は7月2日ですか。我々としても、たくさんのかたに聴いてもらえるよう発信していきたい。強いて申し上げれば、有名な曲ですから、タイトル間違えずに紹介していただきたかった。「みかんの花咲く丘」が正しい曲名ですが「みかんの咲く丘に」と仰っていて、ドキッとした。それ以外はとてもよい番組で、今後ともこういう番組を紹介していきたいと思いました。

委員長：よろしく申し上げます。では、次の委員。

委員：いま指摘されたところも気になったことはあったのですが、どうなんでしょうかね。こういう形でなじみのある懐かしい曲を紹介するのはこれからも続けていかれるおつもりですか。

事務局：はい。

委員：2人のかけあいはすごくテンポがよくてよかったのですが、ちょっと残念だったのは、歌が変わったとたんに、音響効果の面で、狭いスタジオでされているという感じが…もちろんリバーブも多少効かしてはいるのですが、トークの部分と歌の部分のバランスがあまり変わらない。リバーブの工夫次第で、ライブ感が出せるのではないかな、と思いました。でも、選曲も良かったし、曲にまつわる話もすごく良い話をしてくださったので、なかなか良かったと思います。

委員：私も心地よく聴かせていただきました。2人の人柄もすごく伝わるようなお話で聴き入っていました。私は題名のことは気が付かなかったのですが、お話の雰囲気よかったので、そういうこともあまり気にならなかったのかな、と思います。あと、音響効果のところはスタジオ独特の響き方があったりだとか、聴き慣れている方はCDの音とのギャップが気になってくるかな、という気はします。それがウリであるのであれば、私としては、そのままの流れでという感じが伝わってよかったかな、と思います。かけあいながら曲を紹介していくのは良いと思ったので、ほかの番組でも参考にさせていただければと思いました。

委員：臨場感についてですが、それは生放送だったためであり設備も設備だった為しかたがないのでは。「この道」や「みかんの花咲く丘」は納得できる世代があり、これらは童謡であり、童謡には子どもたちのイライラを無くす効果があり、子どもとの歌を通じての会話出来るなどの効果があるが、どのような目的としているか。要するに11時という放送時間であり、この選曲だとリスナーは40代50代に絞っているのか。童謡を聴くこのような貴重な番組は、相当力をいれてやったほうが良い。ちなみに今一番童謡で歌われているのは何か知ってはいります？「ぞうさん」です。今は「この道」「みかんの花咲く丘」は100位以内に入らないん

です。こうゆうのは時代の流れがあるようです。そうゆうことも研究しつつこの番組が長続き出来ればいいなと思います。

委員：随分若返った気持ちで聴かせてもらいました。松下さんもパーソナリティも大変元気でいいなと思いながら。他の人はどうか分かりませんが、80歳を過ぎた人がこれを聴いたら喜ぶんじゃないかなってそんな気がしました。

委員長：ご意見を伺ったら相対的に良かったかなという感触をいただきました。今までなら曲をかけてそれにまつわる解説とか色々なエピソードを話し、また曲をかけるというような流れでしたが、生で歌ってその曲にまつわるエピソードを紹介して、またその話のやり取りをなさる、そういったことを全体に盛りだくさんにしている中でも上手に流れて聴きやすく運んでいただいて、松下さんの人柄もあるでしょうし、パーソナリティもあるでしょうし、腕がよかったのもあるでしょうし。私としては選曲などの音響等々はちょっとわからないのですが、全体的の流れとしてはものすごく感心して楽しませていただきました。生で歌ってエピソード話をしながらやりとりを行う…あまりないと思います。それもちぐはぐでとってつけたようなものではなくごく自然に聴けるというのはすごいなって思いました。皆さんのご意見も聴きますと音響等々はありませんが、それはおいといていい企画だったと思います。

事務局：懐かしんでいただくという方向で聴いていただけたらと思っています。私も今、子育てをしておりますが、やはり保育所で歌っている童謡や唱歌は全然違い、「ぞうさん」などはあるのですが、「この道」などを歌っている保育園は聞かないです。今は今時のものを歌っていますが、ただ私世代がこうゆう歌を聞くと少しほっとするところがあって、私世代のお母さんたちが一緒に朝のバタバタも終わってお昼ご飯の用意も終わって、11時台なのでもし聴くチャンスがあれば、こんな歌もあるだと取り入れていただいてレパートリーに入れていただくことは出来ると思います。基本的には少し懐かしんでいただけたらなと思います。これからは課題をより追及していかないといけないと思っています。

委員長：いつも同じ番組やなと思ったときに飽きてくるけど、こうゆう番組をスポッと間に入れていただくとなんかほっとして気分的にも癒されますね。

委員：こうゆう番組をいかに我々が普及させていくかということにかかっているんで、私がやっている子育てのワークショップのときにもご紹介して、ぜひたくさんのかたに、特に小さなお子さんを持つお母さんがたにも伝えていきたい。

委員：生のよさをもっとださないとあかんのちゃう？そのためにはその放送に至るまでの過程を踏んできてお互い分かり合ったところで番組が流れるのであればもっとリアリティで興奮する部分が出てくるんじゃないか、そうじゃなくてほんまに打合せ程度のことでポンと入ってしまうのであれば何も盛り上がり無くごく一辺倒で平穩無事な番組が流れてしまうので。どちらにしる童謡ですから、演歌歌いながら悪いことするやつはおっても童謡歌いながら悪いことするやつはおらんから、だからこういった番組は育てていくべきです。

委員：番組を30分とかにして、増えた10分間で盛り上がりとか、もう一曲ぐらい取り入れるとか、どうしても歌のスタートが低くなるからいったん途切れる感じがする。話、歌、話、歌になっているのを、話、歌、歌などお互いに盛り上げる工夫をしたらあと10分ぐらい枠が取れるわけだからこういった番組は増やしていくべき。

事務局：子どもたちがカラオケで、わりと昔の歌を歌っている子が多いと聞きます。すりこみで親世代が家でかけている曲を聴いて、歌詞も覚えて、子どもたちは言葉の意味がわからずカラオケに行って初めて歌詞を見たときそうゆう意味だったのだとなり、発見につながる。童謡などで懐かしい曲でほっこりする歌で、例えばこの歌詞でねとか、実はこの曲にはこんなエピソードがあつてとか、曲の歌詞についてや聴いただけではなかなかわからないような曲を話題にしてもらおうとか、すり込みは大きな影響があると思うのでそういった番組になればなど。

事務局：今日欠席されている桑田委員と牧野委員からご意見を頂いています。桑

田委員は、「曲の解説も面白く聞かせていただきました。ただ CD への録音段階の問題か収録の際か定かではないがパーソナリティの声が大きくなったり小さくなったりしていました。松下さんのはっきりとした声に対して少し気になった程度ですが。ぜひ皆さんにお勧めしたい番組です」
牧野委員は、「とても興味深く聞かせていただきました。タッキーの放送番組は審議会で取り上げていただいて初めて出会うことが多いです。空中図書室もそうでした。この番組もじっくり聴かせる番組の1つじゃないでしょうか？特にスタジオで生放送とのことなのでそれを活かした構成であってほしいものです。1つの曲が生まれた背景などを知ると一層その曲に対する理解が深まり歌い方も変わります。「みかんの花咲く丘」のエピソードについては私もコーラスの会で話しますがたいがい皆さん驚かれます。箕面にはたくさんさんの歌のグループがあります。もっとこの番組のことを知っていただきたいと思います。

委員：ありがとうございます。先ほどありましたが聞き取りにくい所があったり声が大きくなったり小さくなったりあったとおっしゃいましたがこれはどうゆうことですか？

事務局：声の質だと思います。

委員：しいて言えば、今の会話において歌の頭だしが離れてたのか分からないのですがちょっと低かった。その一番肝心の盛り上がるところがちょっと盛り上がり惜しかったな。

事務局：マイクを二台設置してしゃべりながら1人でミキサーをやっています…

委員長：僕らはなんとなくイメージで聞いてたけど、やっぱりリスナーからしたら…。

お話を聞いたあと、歌の準備をする間、少し間があきすぎかなと思います。なのでこれを改めればと思います。

他に、事務局から何かお知らせしたいことはありますか？

事務局：7月は箕面まつりで、芦原公園のときめき広場とパレードの合流地点で

公開生放送をします。7月7日の七日市は、対象をファミリー向けに変え、趣向を凝らした催しを盛り込んでいます。また、駅前のステージから公開生放送をします。また、みのお瀧道・四季のまつり夏と題して、7月29日の箕面まつりの各場所で行われる催しを集めて冊子にまとめています。7月はまちそだて事業部のイベントが目白押しです。8月には、市長選と市議会議員選挙があります。開票速報をスカイアリーナから生放送しますので、当確をいち早く知りたいかたはぜひラジオをお聴きください。

委員：7月は忙しいですね。

他の番組でのご意見などがありましたらお願いいたします。

委員：今年度中に2つ、タッキー816応援団の人たちで企画をしています。

その1つがラジオ石巻の鈴木専務をお招きし、大震災とFMにおける関わりを話していただくように日程を調整中です。市長、桑田委員、応援団、ラジオ石巻・鈴木専務、タッキーのかたの4人ぐらいで防災について考えるパネルディスカッションを企画しています。もう1つはちょっと欲張りですが箕面の小・中学生816人で応援メッセージを録音して被災地へ送るという企画。先日プレゼンを行い市の助成金を申請しました。

委員：二つお願いがありまして、もし助成金が少ないときスポンサーをお顔の広い皆さんにご紹介を頂きたいのが1つ。もう一つが、箕面市の防災を含めてタッキーのプロデュースした1つの番組構成の中でイベントを調整していただけないか。ここに地域のFM局と震災の繋がりに関しての各新聞記事を集めました、これだけあります。ここで言っている事で面白いのは二つあって、1つは災害にあった所とそうでない所でラジオの聴取率が全然違う事が分かります。地元の方はテレビよりもラジオの方が役に立ったという報告があります。災害時の発信や情報共有をどうしたらいいか一大プロジェクト番組を検討いただけないかなということ。まあぜひそんなふうにタッキーにご協力いただきたいと思います。今日、タッキーの野間さんが石巻に行ってくれています。

委員：こんなことを市民が考えているということは、野間さんが伝えてくださっているはずで、うまく発展できれば是非そのときはタッキーの聴取率も…。先日のプレゼンでは、せつくなので講演会やパネルディスカッションも全部生でラジオ放送したらお互いに相乗効果がでるのでないかと審査員から意見も出ていました。

委員長：他に何かありますか？

事務局：今月19日に台風4号が来ました。その際、大きな被害は箕面ではありませんでした。一応災害対策本部が設置されましたので、タッキーでは夕方の生放送の番組以降も30分毎に箕面での被害状況を含めて台風情報を放送し、7時以降は市役所から割り込んで9時まで放送しました。今後もこういった台風情報は正時と30分などと決めて、最低でも30分毎に放送していきます。被害が大きいときは間隔を狭めて15分、10分毎に随時放送していきます。放送と同時にホームページの緊急災害情報ページとツイッターでも情報を発信していきます。これからもよろしくをお願いします。

委員：タッキーはこれから防災や災害にどう関わっていけるか。行政にとっても大切な事なので我々と一緒になって伝達する手段、それとトータル的なプランニング、それをきっちりして一度発信する必要がある。あとははっきり言ってタッキーの緊急情報に関してほとんど知らないと言っても過言ではない。

委員：コミュニティ放送としてのタッキーの役割。防災についても傍観者じゃなくてタッキーがやるのだ！と行政などと連携して仕切るぐらいの試みがないとなかなかうまくいかない。二つ目はコミュニティ放送として絶えず市民と近いレベルで放送しているか。具体的には市民参加型の特徴としてタッキー816応援団が20人ぐらいで交代して番組を放送をしたり、もっと身近に、例えば、メンバーが散らばって各地域の実況をする。インフラが破壊したから電池で聴けるラジオがものすごく役立っているというのが共通の認識。つまり、電池が切れていれば交換しなければならない。それには常日頃から身近なものとしてラジオ局としてのポジ

ションが守られているかどうかにかかっている。何か起こったらタッキーはすぐこんなことしますあんなことします、被害情報、安否情報などをラジオでこんな風にやりますと、きちっとした絵を描いて。

委員：タッキーでやらないといけない事はもう1つあってインフラで携帯が繋ぎにくくなる。これは震災では事実なのでそうすると箕面の情報を、例えば私の実家に訓練で一回ラジオ流すから聞いてよとか向こうからの安否情報や問い合わせ、こちらからの伝達などの仕組みを作れば凄くタッキーが有利に立てる。構造上としては箕面以外の人にも情報が伝達できるのはタッキーしかない。これはもっと真剣に組み立てるのがベターだと思います。

委員長：今日はいろいろなお意見をいただきましてありがとうございました。これで閉会とさせていただきます。ありがとうございました。

7. 審議機関の答申または改善意見に対して措置および年月日

なし

8. 審議機関の答申または意見の概要を公表した場所における公表内容、方法

自社放送

事務所への備置

ホームページ (<http://fm.minoh.net/>)

上記事項を明確にするため、この議事録を作成する。

平成 24 年 6 月 29 日

箕面FMまちそだて株式会社

番組審議会